神田家文書

へ13
2912
4

へ3
2912
4
侍

昭和九年
七月六日
購求

申改

伊

秋田雜談 阿耨池二編中卷

江戸

○第八 譚

人間一日一夜を經るあいだ八億四千の念あり一人一念を記すべし一生涯の念を六十念弱と記ぜば十生涯の子孫の為の示

爾あるいとは法念經ふるくらう意味なり代々八年後の[illegible]一立

為ゆえ後彼已亟門とあるせ〜吹を不書とおりの人材[illegible]之

ゑんを又ゑんべ亟ゑらが身のうへを淡くとおもさうあ數の紀念

鼻山人著

と打伏へるもり貨を焼板として血筋の線の高ゝ〻〻一分と
七厘をもちゐ〻〻まつ〻せさく〻出る涙の中ふ流出さひ〻〻
ゝどもゝ〻〻川竹の流れふ泥と籠のもの作ふ取多ふ出たり
出持ぐんを何ゝ作りもあく〻氏年月流れ〻〻〻〻〻今ゝ流れ
潮もあき苦海のさとふ潜ゝ舟の掃もたくる扶りひ流れ〻の
形らよ丸風の出作りを切て世ゝ下ゝ〻〻ゝ〻〻世ゝ世ゝ
祝の海のあきあどふ世ゝ別〻〻多の流れ〻〻〻〻涙ふ流れ〻〻
丸ゝ〻〻出ゝ〻〻〻〻〻涙ふ出て〻〻〻〻〻

平〻と吾姪あんとんの中に世の人びと表女とものして社内面の楽
しく陶器されど今又外に実の姪とり来あるとも無名子とれを
上げぎち孫に倡妓の身のく〻当れ奇ふ紙ち子紫の上に
〻我儀俳者を御ちさん俳斗まうちあややくさに落くどの
あも咲されねトちる〻まるとちとへ妻吹ぐ婚孫何人子代ちを
ぎちゆで〻もし長形さあ形〻笑ふ代沼湯宅八仕流あ〻抱あさ
月の拝ぐるのをりふ奴と拝ぐ〻ち〻生ちぐその巴面の仮姫ちと
ちまるふ空流まつく形〻ぐ親判とぬさまさ人懺悔ふ

形の沸ることちまるんがまつ〻すトおやの寄されてちまうまち〻ぬと
形〻ふ今子の去外とちまして彼面ちらふ姫のまぐふさ上の
ひふあ親ぐだ〻くと亡失て身ちのあ見をされちふ妻さ乳子の
寄鶴新子ちら〻そて寄てまぐちの紙をふ面の熱ふとの身
巴面の門〻三十あふ寄まち〻〻とのふ今で尾谷でも走さあちら
今時分ふ人でも寄ふ身のく〻ふ物ぬ迷まち〻ふ美ぬ人ふ
寄ちち焙爆火邦のまちんぷん子あとちふ今をぐんぐ直
忠伝ちんぷん弾さ殺の形ぬぐんさ形の出〻ふ答や答ふの

ゐる雖も身の暑り見ゆる苦り見ゆる姉ごゝ義姉ゝ
毎晩おちけて腹くゝの苦しゝ人ゝるで居る熱鹿神た
一人の娘を抱ゐ居して死んで居る氏母のゝの苦しさ宿ゝと
逃めて来ても居るゆゑ抱帰せず親ゝ抱ひ引ゝ
仏壇ゐ表娘ゐまでゝき見をゐる人形人を合がぞゝく
抱めんゝ身ゐ付ゐ身のゝ抱ゐ抱見の氏代さ多ゐ口ゝ伯父
あるを口ゐ出て来ゐるゝ抱ゐを求めて抱ゐもせず子供キリ
極の物ちゝひ出ゐ共熱鹿の付キ縛ひて抱めんゐ見

ゐ出せて自ん と頻毎くゝゐ青ゐ出て身の毛も逆立ゐて
いろゝく作ゐ出ゐ後くゝゐ教骨苦ゝむ五体の悩乱ゐ
ず死ゐ苦ゐず地獄ゝ墜ゝ呵責の鬼ゐ責ゐ抱ひよう
抱ゐ熱鹿義記ゝ苦ゐ引ゝ縛ゐ縄ゐ車の乳ゐで
新ゐ命ゐ血の涙ゐ身ゐ角ゐ苦ゝ
て位牌ゝ仏ゐ白の香の下抱ゐ
付ゐ引ゐ苦ゝ高ゐ抱ゐ抱ゐ
身のゝ人ゝ立流ゐ抱ゐ

引出すべきやうもなく伏て只涙の白波元あれ
幸ひなれば実をもつて熊野を伺ひて私をもつて
るを吉まつ世あべ兎も角も屋敷へと奉らんと奥をこん
とふやうくと伝よをもとめて出ながらも月日をあるうち
兵庫の松のおぬしもあくいひ出すべきこゝ伝めあるべんの中のもど
ひさうるものふ義うら持ふおぬしゆて又申こうと切りこて赤
まくもの高里へたらべるもお拾ひあるべさもの数が出ろくの
身のうへとやどうくこうるでおざうまやこ和と天道さ夜のあく

すみうら様こゝ母の様今が付縁ってあるさのおくへ帰きくつとあるべ
相宿れば兵庫へあるりさまれべをもうこの姉ごとりあが其只夫の女
おうこでおりまくこうまれ姫の中へ出来たる娘をまるさのあるを無物の
若こくふる姫の続きあるんどるまを伝ふ通の中こさふ法のふ一家も
ふとさるのあく親もあるふれば他人は世ん徳拠あれべきちうぶうろふ
乃遠ひなるんどもとこぶ伝郷沈沈いるるぶべのやるを和ぐんが
門徒ふあらくやらんでおうくぬひ手すこふの妻へくをふ
たべうつあうらあまくべ数ひ出拵帝とうふ中こい伝郷でるえん

死人を血まどさらひ差さきこまを結〳〵ませうゝ絲を繰
の俗うとゝちやあんまうでざうますもう袋が物よう繰掛
特乗報者う切つこ娘の命のこゝ俗掛ゝ〳〵も私〳〵の死るまゝ
死んご姉ごも言訳立ぶ坊をまどもぬべきをぢつと堪へて
ちまを新夕古持ごん何ふも私〳〵の命のあるあぶず知こゝまもて
の恩遠を姉こゝ俗る一筋ようお那ひやい知うらご命のこゝも
お義出ゝのお情ふねとでおゝ遠まずともせめて一夕の
対面もあるまぶ渠も哀のひの徇を嗜〳〵弟ゝ命のこゝの

もとゝもゝ〳〵おゝひきふ実ゝ吐〳〵のこゝ丸まるの鬼子
ふ那ゝ見て古縋ひのゝ〳〵と朝ふふまゝふゝ〳〵が 死代文
〳〵ゝのゝふゝを分ての那ひ言れが知ゝふゝ命も角もちご
ゝを探ゝゝゝふ通分意ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ
ゝゝ雑ふござうますさゝゝあされてきゝゝ私〳〵ご私も
ゝ紙仕ゝ死んご姉ごも美泉の丸ご叮〳〵熟考るもやござう
ません死代〳〵ゝ仏のゝあゝゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ考ゝ
注ゝ一ゝ考ゝ俗の鬼ひごゝらうごやゝゝ娘の祥月

五一の功徳ふかめ〳〵や　夫〳〵イヤ〳〵千俵万俵の出俵よう
そろふ姫ゐ拵ゐ〳〵さあ〳〵あらば明朝かさうそくふ式へすぶ
朝食仕まつて引ませう　夫〳〵一号おさう雑ふごぞうを子すへさあう
あら〳〵中稽ぐんよう　トよろぶろふふ〳〵ゐざおくふつふきゐ
ひつぐまばスぜんゐ法きき兵さき炎ぐ子のく人をいあべ〳〵
朝てその所も明ケぬれば老人のせう〳〵おく新飯おまあとおゐ浪
夫炎ぐ俵の東門〳〵巴亟の拝へ赤りゐ和門縄をまゐうぐ混
雑〳〵て明ゐるゐある大ゐ巡兎の波多〳〵雑妓の作急新ゐ近ゐる
上へ美殿のゐる嗜〳〵く上へをトタへとゐ〳〵ふ引ゐイゐうす

大騒ぎ夫炎へゐるゐのゐ明ゐるゐ世ゐ〳〵ゐ人ゐ
門縄へ通ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ集ゐ品書ゐ人ゐ集ゐ伯
八さゐゐゐゐ〳〵ゐ門ゐゐ世ゐ〳〵ト宴ゐ亨ゐゐ非門ゐ世ゐ美ゐ
分限衣の男家ゐ〳〵と混雑の中ゐ男ゐ最ゐす美服ゐ着ゐく
ゐ〳〵ゐ代ゐを上座ゐ率〳〵ゐ着と拍炎ゐ代ゐ美ゐ一礼イのゐ
明ゐゐ立ゐ〳〵ゐの中へゐの合ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ
ゐ〳〵ゐ下ゐゐゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ
ハイヤ外のゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ
お盃ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ

あるし男のうえが今月明ケ方より急に大変さうそく医者
うん弁まーたら卒中風の症あるとと事に成て手ーぐ
宮ゆきとれも呑るもあるべ仕方ふ測の為ふ美悪ーきるも
あーぶしうトまりのまさるを尋神ーdm夜明ケ方と白ぶ
ひくひまとのぶ紀光り和泉ふ発来さそ取ろーぐざ知人
入れとうんーがキャッとりよ多人ふ見るもあーぶと乳強くも学ふ
強有ちうんてあんべ七鶴八俗の苦ーミソレ医者ふ立寄りよと二人
中ぶ歩者て宮ーの看為ふ正紀もなぶる話ふあるる為

コハ方切のまさるを人と物りふようう美ハ女子のくふうさて宮ふ寄の看
為あるさびいふ〜〜全枝号来ふ一と歩さるふ式次の宮人は是来さ
ひとてふ為ぶ自身の美ふの世話いるふも悪ーき光り物人の弱さ
の純金あるる郷ーふその時縄神の接て形ーーめまるる合島の
ゆうれ方為人ト出て来る玉ハ来合せて日来の親ハもは
統せずるーー乳あるふ乳んざあるら長やんる物るらん世ふこふ長の
ちこうちふふ代ふさふのお獣ふりと一ト国ふ金て来うたんトるわ
人の一番ふ〜いるーふお那ひやーふぶ〜〜長まで世間ふ中ー上ぶ

玉桂が死を
見て千代美兵次
悲傷の涙を
落すなり

いろふたあるあんばいとてお部屋の又金ずかの為らんませうまづ容儀を
下通り出張あるされてやさうませとあ代さんを伴なのひっぱりつらぐ祝
のとふいさう耳へ〳〵とれあるとヨをまつど日ばかお部屋のとこ夢れ
さのひ考る〳〵伯父さんの子代さんを今年の去年がおいまヤて
来ることのこれもそのあふう死因とう金業させて部屋のつぼ〳〵
死んだ姉どく滝云の云次ぐてらコレ正部ろあって使分て出りんきよ
さあく身のうへをおい〳〵ヤーヤたるのあ改め途中あて代さんあ
ぐお招ひあるされもう貸もおよのうの分のあるを去分ってきれども

仏壇の身の毛〳〵ヤ嘗うと繋ぐ見るる金部るぐ出ふ
るのあのこらべコン同を用くるて自うて代さんあ物の系毛さお
毛のきるれヤイトのこのあきるて自をあと代さんのかっつ〳〵るるぐ伯父
さあでぐぐうまるすうこヤ出ようあるるのうへあるるまーそう死
美男の兵衛の考伝ふあるねを位月一兵者一に屋うるされ
るれ能お使ってを仕て慣る美殘撥のちう貸対ぐあを去ばして
毛ってさ付のにおーさ宮あお部屋るるのの伝うも線のを白うると
あんまりの毛ーさふうら〳〵と眠るるら寸忙然とーー疲明方

[illegible]
そんぐ中〳〵火の塊の如く人の者の一念ゲそるのの身ふむふ
と共ぐめて仏の業へあらしアラ恐ましの身のうへやトもとよりさのサアの如ク
その如くときんが怖ろしく〳〵たちまち鬼の姿と言りし
咽喉へ食付トそのうちをうんで鬼の苦痛の如き身共
その如く新血ぐの孫八郎も角も郎まで我を恨む身のせ
めて仏の安坐さを苦〳〵をも途しても恨の仏ようコレ〳〵
〳〵〳〵苦労を仕る為郎して無ぐ

[illegible]
ものの仏不敬ひまつり血筋の孫と扱ひ[illegible]と思ひ
まするト和尚のきゝを[illegible]ておそろしとそのくをそして押義〳〵
お志賀を[illegible]ふ仏のやうさを日来の神仏[illegible]
此[illegible]不合りやうお[illegible]の持きよ[illegible]
[illegible]人の身のうへを十分[illegible]角して伯父さのおんを[illegible]
[illegible]鳥ふいの孫やとも[illegible]ふ拵ちひのもう[illegible]
[illegible]面目あさのに[illegible]さふ[illegible]の孫の一念と共今ことを思ひ
[illegible]たと〳〵命共[illegible]とも[illegible]
[illegible]や父の[illegible]魂魄

はちふまへて一日ゆくとも伯父さるゑふさ孝行をたくさんひび者ら和
下の父さるゑや母さるゑ〳〵と苦痛の中の妻云ふる母子代美が
るのををいひ者〳〵るいぢらしさ雅の子代美もそぐろふんりされ
てさまんべアノ乳母のおとをを吾姫と扱ひ〳〵ふ生涯の恩りあるら
どんの中ふ後悔ま〳〵絶まで美ふんも知ぶ者くるゑ用をうを
て乗〳〵ふさもふ疫やいとや〳〵やと猶ふ通ずる志の中五ひゐ血
筋の縁解く嫁〳〵やとりふ一ま者ろ代五の別目嫁乞ん与ふる
懐世〳〵より悔〳〵き嫌の孤却〳〵て表の方〳〵立寄りを子代美ふ絶度

足てらん魂祇の扱ひ〳〵ものあらんと扱ひ〳〵仮〳〵と出ふ者ち祇
ぶ〳〵きゆうもあく縁のるゑふ縁るゑ表ゆふ歩まうすとこ〳〵ふ嫁
ん〳〵ゑ〳〵居岳ふ呂一人り巴五の浮を立出ちる○盤日ま〳〵と与ふ
ん〳〵の祇さ〳〵ち疫ふまち〳〵の吹ゆ拍ふふ扱ふトよゆる者の表ふ五者の風
老美を五ふぶず吹る足一人も今日ふ飯ら和諸ふおゆ和〳〵ふと
出表必滅の理う命表定離の表ふ〳〵ゆふ表ふ〳〵愛
て祇事の縁ひを表るのひゆる祇の姿ゆ情事よが〳〵との〳〵ほゆ
ふんど祇祇の表ち〳〵ふ居ら表ふ迷ふて表の身ち若

さらに不ありくくさんへ和くらのゆめのべまぐ仏の恵もあるくしあが
美をとさるぶどく今郎いむるーー死身とおしを郎々きくまてる
しんぞうぶろ さら
離妙兎も死ふこれを壺とも拝のらず入り彩う立ちう拝めとく
来ところてい〳〵拝のらんお茶うじもおまんあんーーさく用でもおふべおあび
あんーー〳〵ヤヤ然楽入てお茶のんすのものをまア鞍ってお楽くー
ヤてお上ケあんーーあんあふ苦しんでお出るんーーさのをさそお茶と
あんーーさらー〳〵モシイ此歌ざのつそ冷さく拝ってすトいちとふ女
ぐ〳〵これのこんながやあてそのゆくふ看為もいとぐーーとい思くどを迎ま

ま
叶ふれ者食ぐく来ってふ来ふ
惜るまくし仕拝てとそ死とい〳〵ぐまんまくく〳〵〳〵ヤ
さうで拝さちそイすうトまちらとふらうとぐちうふ法出ふ雛妓虎修ふ
ちくる拝のらんの死ぐとれのてん鍋さ軟とも妻ふあいいとぐ
歌きぐ拝くくう歌ってもふ第ーーまくれば法術者をいきうて法をを
立ちを絡の死鞍をふ〳〵分もよの死おちらふ来合せーーとりる
ふのぐくくを方とちのぐら軟判ある人今戸の出外さんとふのう
ちのれがも季法文を死鞍ふ法てくー法ーーぐふ思く鞍ちて

やきふまれと今の義者貴ふくまーふさすぐ亡八金の通ひ表
ふつ雑くこそ見てふくるとれもつ孝見ろらぶ孝生の勢ぐう
写きまうこうくの利徳を仏ける西鶴の俳れイとに去ぬも
ふふ物ひつくまのうあうちぶ死鶴を棺ふ敷きあ見湖ともふ
くくうの中をーたくく佛も文代美に去ぬぶ曽の形ひを物
ひけて己愛の浮いいうあうくふ舞自きくあるもあくむはく
ぬりをくくもくも悔ーく物ひつ杖をーて独ー年浮くくち
房りあふ源用ぐぐ方ようく矢の物ひのくぐーくうおぶ

るふ分て弱ち怖ーくくふ思ーのふれくうふ見ーー徐ふ出
ちきれくあうあとと紙ちは上ちう逸ひのくの作をーて表くくふ
武美の毒さ入ーくくくくちの戻ーうをぐあれどる物ちや出毒ぶれ
ふりとは出と毒文逸ひのふ表ちを倍ふーー注ぐ利用ぐ表キ考さ
見ぶすぐ実ちくも鶴の貴ーて物倍ーきくちくくーーくこのふぐ表の
くくの姿ちを鶴倍ーちぐーくのあちくくくくくくくくくくくくと
ふりくふーー揚て疲明ぬくちと注ーうあを出ーくくくくくくくくくくくく

日あく妻まづら係る死骸を出見まをとりて揚ゝふ子分ん
日中意あるんぐそぐ係るんふ薄ゝ〜垂て長曾出るをるびぬ
トきして千代三郎とんハトだろう斗絵を寄さもあくくるいるるの日ぜや
知ろらぶ身のうくといひ入うえおまぐ雲死とうひまもくくの主事
城ろるるのいるるる雲の絵をくぐやトんのうちわつくあるやいとぎーや
無ふ金銀ちどそる美人拍なるんどきその今銀あ換ぐも死人の
金まりまらー活るものづまちこれを去切ふ拍ぬぎらん情まも
惰ねぐまきを蓮巻ろあんどのまうふまきろうぐ池ゝ拍ぐまふろく

まるのまて看らんね係るあるきろそんふ身ケてもまろくふぐろ朝の
ぐんなを的中まるるのあんぐきんを係ゝてまぐるも又飛ぶまきるの
あぐんトんのうちふ附るちぐぶも逢中ふ拍ぬくく似場ぐろぐとりふ
者の後を拍ひゝぐ係ふ拍まるる長女めぐ死あし孫角あり者と
拍係ゝつんどん幾ひてちのあ実まろ飛ゝとを上るもぎろしぐ
呂曾射面の形ひふ金ままく償ぐろふまろもく今形まきまき
より立出ッ影街ふふりまろらふ射面ますもまろぐくのふ心
者黄痛の中まり弃代ある惰後を者るるもあくまちまく

千代多へあるが
揚死のやうをを
ゆびに玉掛がうをを
物信ずする

命の消えゝを我等とて是を[illegible]
牧場の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]又[illegible]
[illegible]須臾[illegible]
[illegible]
[illegible]念の一ツ[illegible]
[illegible]
[illegible]

吾身の過逆形られて結ても吾られぬ人の剃形さえ見ぬふ
情その色を都ふ出さび毛を吹て疵を求る哀しさふ二人う
泣明し〜哭ぎて塩西結〜くも思ふ浮さの餓う
あの形果金本ふ却のこく〜ふ代さ〜ふ拾ひあさん〜と見の
はるのふ〜ぐ〜ふ〜を〜ふ〜ふ〜ふやとあるあるまらんずあ〜じ
こ〜ふ〜ぐ〜ふ〜ふ〜ふ

ものと締めまうふ者ども〳〵宮部のきんまでも参りきた人
の母親ふ親きをを氏す人あるら踏部ふ逃りもるるのふ孝の
孫ふふまうを丸どもこれも者はの弱そ〳〵のと絵をきまうて
親とともふ親もてもを死をいそぎあらう〳〵出亜まうもとと
トこ武芝ふあまれて面目ゆ者もあくぶそそ消日考る死氏場の仕食白
地あれ和の〳〵ねども吾弱ふも粗又人流る出亜ふ下寺者の言沢
あくそれかくとおろうあそ弱ふ入るるあうさあり氏安あの弱人ら地
物〳〵行て爛庵の者へ引出されて〳〵ごとく義〳〵ものあるらぶ

拘張りとりひ今又おまぶ出抜きとりひちの云語行を制て合せる
がごとくふさそ丸今まで我〳〵夫婦の段も氏女ふ歌俳れ〳〵うさすれで
ものうらぶ母のうへこそ粥ひも丸吾姪あるうトあぶ〳〵きれでこども
法弱うき入るるゆえキトあまぶ〳〵ぶれて清を人あうひふ白脈縞うきうら
ら兼ら〳〵き狐巻うと抜り丸るうさすぶ子代多〳〵老功の動兵
ふ者者者ものうれば法ぶ〳〵と二人うの女子ぶ死せ〳〵うふ今これ城
法ひ立者〳〵ものの者ものるる仕食都うて吾暴急あるる牛ひ
代せるの人ふ者ものの〳〵きるるや狐ふまでも稲俵ふ流〳〵てきう

孫が涙ぐんで今更面目なくべしと拵へ元来人不あるべき
ものきんぶ料理をして一杯呑ませたるもあり云ふ所
女子の様ひんのよう物のるゆふ所をして所の道の達上者為達
とおもつておさんがを一ツとして洗あたり立ねコレ学者直親子とも自
滅して死なとあんども千代さんに氏通り門へ引しとその夫一人ゆえで
まるものが知れてあるトかもすぐ三ツもこもおもしろ分あり三ツ出き人いろきあ女子命の
さ沙汰とかるへまきねて俗を沙汰して国ぐるのをとして涙まるとト
ばかりなら人形の姫まるもあり美しるものをも血迷ふを去て有が

る鞠をいろ〳〵せんと斗猫をつき又狐子の子も出のちせ〻いろ〳〵
共里のちさる時〻き今ろ〻代ろ〻女のお手指不器ふまく〻ぬ〻
おろまやいさぐ多かれとの大仕合せとんのまれ所ろ〻べさるあとも此る達ぬ〻
落せ〻夜のちろぐるお拵ひあきれて五ろ〻ぐ多のろ〻の中ともも
親倒あてお出まきれ〻ろとれもふ測まちり張ろいろあり多
あまて別れ〻が今初代世の姫ろ〻ぬ〻ろ〻ろ〻ろ〻ろ〻
ふ測のめぐる関係おもが強五〻多を拵〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻
のるの動ろ〻ぐ死ぬる〻歳が明ろ〻ろ〻の後のろ〻ろ〻

らが池の水中うつす雲の影火那乃氣て雲をさそひとゝ飛び
さゆるこゝろ〳〵おもがゆるくるの和ろふがゆかくもゆきゆる
寒ゆるもとゞのさらしあら器一の女の祝金ゆゝ若ぐろふ女の毛もふ
立てく我と浩ゆるもまるく〳〵お清ゆる爺もあろうろう

河内が池三編中巻終